

草津宿本陣

資料調査だより 号外

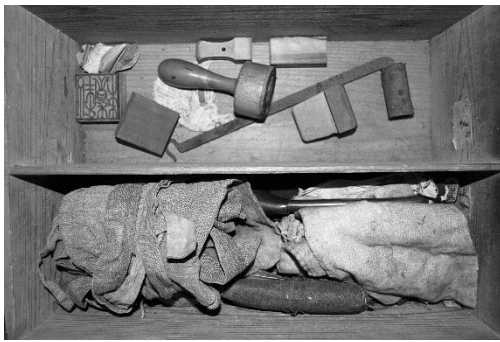
◆ 本陣利用者の「忘れ物」発見！



今回発見された「失念物」全18点。
煙管入れ、守袋、矢立、脚絆など、旅人のものらしい持ち物が見つかった。

◆ 発見の経緯と史料的价值

平成三〇年六月に開始した草津宿本陣歴史資料調査の過程で、本陣土蔵内の箆筒の引出から発見されました。



発見時の様子（下半分が「失念物」）

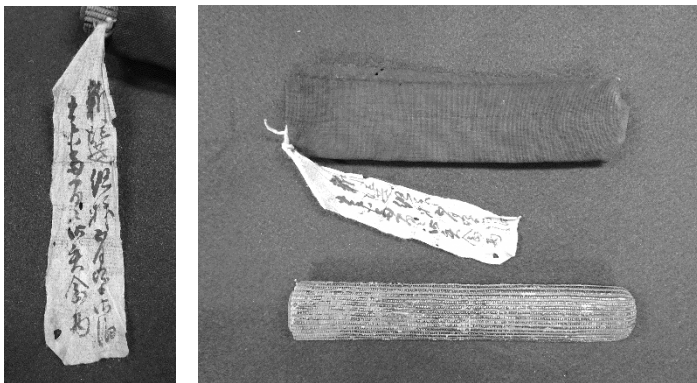
・ いずれも旅人の持ち物と見られる
・ 何点かに紙製の札が結びつけられており、取り付け方や記入の仕方などが均一で、何点かに「御失念物」「御本陣」と書かれている
右のことから、江戸時代以降、田中七左衛門本陣で預けられてきた、利用者の「忘れ物」であると判断しました。

◆ 注目すべき資料

「失念物」という性質上、同様のものが他にも多数保管されていたと思われるのですが、これらのみが何らかの理由で現在まで残ったと考えられます。

渡辺和敏先生（本調査委員長・愛知大学名誉教授）からは、「江戸時代の忘れ物が、このような形で残されている例はほとんどないのではないか。田中家が、利用客を非常に大切にしていたことがうかがえる」と評価いただいています。

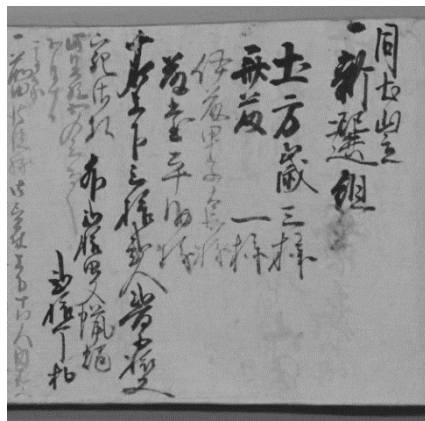
煙管（きせる）入れ（写真①）



（右）下が煙管入れ、上が布袋。袋に紙札が付けられている
（左）紙札

煙管入れと付属の袋。煙管本体は残っていませんでした。紙札に、「新選組五月九日御泊 壱番間二御失念物」とあり、新選組の持ち物と見られます。

慶応元年（一八六五）の「大福帳」には、新選組隊士のうち土方歳三以下幹部四名を含む三二名から、謝礼とろうそくが渡された記録されています。



慶応元年「大福帳」(部分)

同※ 土山立

一 新選組

土方歳三様

斎藤一様

伊藤甲子太郎様

藤堂平助様

右上下三拾式人式百五拾文

宛御払 外式拾四文蠟燭

式拾丁払

此足賄五貫三百文

※五月九日を指す。

今まで知られていたこの記載のみからは、彼らが七左衛門本陣に泊まったかが定かではありませんでした。しかしこの資料の発見により、実際に宿泊していたことが明らかになりました。

(詳しくは下のコラムを参照)

守袋 (表面写真②)

安政二年（一八五五）、「明石様御泊」の節、「御本陣下之風呂」に残されていたもの、と紙札には記されています。

紐が固く結ばれているため、中は確認できませんが、寺社のお守りやお札等が複数入っていると思われます。安政二年は今回発見された資料に明記されているうちで最も古い年代です。

守袋は他にも八点あり（写真左下）、今回見つかった「失念物」の半数を占めます。袋を開けて中身が確認できるものの中には、「金毘羅御守」「京八坂」「麻布一本松」など、各地の御守が計十一一点納められていました。まだまだ旅が危険と隣り合わせだった、江戸時代の人々の思いを感じ取ることができます。

矢立 (表面写真③)

文久二年（一八六二）の大福帳に「大洲御姫」と見え、この時のものと思われる。紙札に「御宿草津 岩てや清八取次 御本陣 田中七左衛門」とあることから、本陣に忘れられていたものだけでなく、本陣利用者の同行者の忘れ物も取り次いでいたことがうかがえます。

今回見つかったものはいずれも、当時の人々にとつてはごくありふれたものだったことでしょう。しかし一五〇年以上のあいだ保管されてきたおかげで、多くのことを今に伝える「文化財」になったと言えます。本陣当主・田中家が、本陣職を勤めた歴史を明治以降も大切に、資料と建物を今日まで守ってこられた結果です。実際に使われていた建造物と、その歴史を物語る資料の両方が現存していることは、史跡としての本陣の価値をより高めていると言えるでしょう。

「草津宿本陣に新選組が泊まったなんて、前から分かっていたことなんじゃないの？」——この度の発表を見て、そう思った方がいらつしやるかもしれません。実は今回の発見まで、「田中七左衛門本陣に新選組が宿泊した」ことを直接示す資料はありませんでした。慶応元年（一八六五）の大福帳に名前があることから「土方が泊まった」と思われがちでしたが、この記述から分かるのは、厳密には「土方歳三以下隊士三二名が、七左衛門本陣に謝礼を支払った」というところまでです。この時期の大福帳は、単に休泊者の名簿というわけではなく、「到来（利用者からの謝礼）」「通行（その日に宿場を通過する重要な一行）」などの項目別にリストにされており、「新選組」の記載があるのは「差宿」という項目です（「差宿」とは「宿の斡旋」というような意味）。これだけならば「新選組は七左衛門本陣の世話で草津宿に宿をとった、もしくは休憩した」と考えればよいのですが、新選組についての記載は他の例と異なり、名前

草津宿本陣と新選組 —明らかになったこと—

の下に「御泊」「御休」等の利用形態が書かれていません。つまり、新選組が草津宿でどのように行動したのか、実際のところはわからなかったのです。しかし今回発見された紙札で、「新選組が七左衛門本陣に宿泊した」ことが明確に裏付けられました。年代は記されていませんが、新選組に関する記録が他に見えず、日付も一致することから、大福帳に記載された慶応元年五月の利用時のものと思われる。なお、紙札には「老番間」とありますが、現在のところ、本陣のどの部屋を指すのかは特定できません。ただしこの時に本陣に泊まったのは三二人であり、複数の部屋を使っているため、そのうちで一番目の部屋であると考えられます。前年の池田屋騒動での活躍により地位を上げていたとはいえ、当時まだ幕府直参ではなかった新選組隊士が、最上級の部屋である上段の間に通されたのは不明ですが、「老番間」は少なくとも幹部四名のいずれかが利用した部屋であると推測できます。

令和元年 七月
草津市立草津宿街道交流館 発行
この情報紙に関するお問い合わせは、
草津宿街道交流館までお寄せください。
電話 〇七七・五六七・〇〇三〇
FAX 〇七七・五六七・〇〇三一
ホームページでもご覧いただけます。
(http://www.city.kusatsu.shiga.jp/
kusatsujuku/)
※この調査は、「文化庁 地域活性化のための特色ある文化財（美術工芸品）調査・活用事業（国庫補助金）」の交付を受けて実施しています。

